

年(五百六十六年)其王名馬を獻じ、隋の煬帝大業中(六代)王龍突騎支、來貢す唐の太宗貞觀六年(六百三十二年)突騎支使を遣して來朝し、磧道を開かんことを請ひ、高昌爲めに怒つて其の邊を侵す。十四年候君集高昌を討て、掠地を焉耆に還さしむ。後、焉耆、西突厥と婚し、復た來貢せず。

同年安西都護郭孝恪之を討て突騎支を執へ、其弟栗婆準をして國事を攝せしむ。從兄薛婆阿那支自立し、栗婆準を執へて、龜茲に獻ず。突厥の阿史那社爾、龜茲を討つや、阿那支奔て王師に抗す。社爾、阿那支を擒にし、突騎支の別弟、婆伽利を立て、王と爲せり。高宗の上元二年(六百七十五年)此地を以て焉耆都督府とせらる。既にして婆伽利死し、國人突騎支を還さんことを請ふ。高宗之を許容し、歸國の後幾許ならずして死す。子懶突立ち、竟に回鶻に併さる。降て宋代には則ち西州回鶻の地、明代(千五百)には準噶爾の占據地たり。

交通路は、別に省會烏魯木齊に通ずる山道の外、西は喀什噶爾、東は哈密、南は羅布淖爾を経て、西藏に達する駝路あり。氣候は冬季稍々温暖、夏季暑熱甚しきも、亦吐魯番の如くならず、三、四月東北風、六、七月南風多く、且つ熱するも、其餘の南風は頗る